

2017年9月30日
一般財団法人日本科学技術連盟
プレスリリース

2017年度（平成29年度）日本品質奨励賞の受賞組織について

日本科学技術連盟の日本品質奨励賞委員会は、2017年9月30日、2017年度の日本品質奨励賞（TQM奨励賞、品質革新賞）の受賞組織を決定しましたので、ご連絡いたします。

一般財団法人日本科学技術連盟
理事長 佐々木眞一

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

日本品質奨励賞委員会事務局
（一般財団法人日本科学技術連盟内）
事務局：安^{あん}随^{ずい}正^{せい}巳^み、池^い田^た晃^{あき}、菅^{すが}田^た未^み優^{ゆう}

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1
TEL：03-5378-1215
FAX：03-5378-9842
E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

2017 年度（平成 29 年度） 日本品質奨励賞 受賞組織

2017 年度（平成 29 年度）の日本品質奨励賞の審査は、日本品質奨励賞審査委員会の各委員において、本年 5 月から 9 月にかけて行ってまいりましたが、本年 9 月 30 日開催の日本品質奨励賞委員会において、以下のとおり受賞組織が決定いたしました。

授賞式は、11 月 8 日（水）16:10 から、東京・大手町の経団連会館において行います。

授賞式に引き続き、18:30 から同会館において受賞記念祝賀会を行います。

また、受賞組織による受賞報告講演を、東京・神保町の日本教育会館において、11 月 15 日（水）10:30～11:35 の時間帯で、日本科学技術連盟主催のクオリティフォーラム 2017 内で行います。

受賞組織（五十音順）

1. 日本品質奨励賞 TQM 奨励賞

- ・株式会社伊那セキソー
- ・エイベックス株式会社
- ・大豊精機株式会社
- ・株式会社丸開鉄工
- ・株式会社マルヤス・セキソー東北

2. 日本品質奨励賞 品質革新賞

- ・株式会社眞栄
（テーマ：和に基づく川上から川下への山林事業の展開）
- ・リコーテクノロジーズ株式会社 第二設計本部
（テーマ：PQM（プロジェクト型品質マネジメント）による設計生産性の向上）

受賞組織参考事項

1. 日本品質奨励賞 TQM 奨励賞

株式会社伊那セキソー

代表者名 : 山田信二 (代表取締役社長)
所在地 : 〒399-4601 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪 10320-12
TEL : 0265-79-5000
事業内容 : 自動車部品の製造、加工、組付け
従業員数 : 32 名

【選考理由】

(株)伊那セキソーは、1975年に日本セキソー工業(株)の伊那工場として、冷鍛品の製造を開始した。1983年にチューブ加工、1992年に樹脂成形を開始し、チューブ部門、冷鍛部門、樹脂部門を3本柱とする体制となった。資本金は3,000万円、2016年度の売上高6.9億円、社員数32名の中堅製造業である。

TQMの導入における基本的な考え方は、“人材育成をベースに顧客から信頼される企業をめざし、TQMを体質強化の1つの柱として良いものを早く安定的にお届けする”ことである。TQM活動の特徴は①経営層の強固な意志とリーダーシップ、②工場革新のための「ニュー都市計画」、③人間性尊重を基盤とする人財育成である。これらのTQM活動の結果として、すべての成果指標が伸びている。

エイベックス株式会社

代表者名 : 加藤丈典 (代表取締役社長)
所在地 : 〒467-0853 愛知県名古屋市長久区瑞穂区内浜町 26-3
TEL : 052-811-1171
事業内容 : 油圧制御用スプールバルブ、リニアソレノイドプランジャ、FCV部品
従業員数 : 365名

【選考理由】

同社は自動車用構成部品(自動変速機における油圧制御部品等)の小型精密切削、研削加工メーカーである。リーマンショック後の会社の急成長に伴い「トッパー人によるマネジメントの困難さ」「人材育成の遅れによる属人的対応」「ロスの増加」等の経営課題が顕在化してきた。経営目的の達成とこれらの課題解決に向けTQMの導入を図り、活動を推進している。TQMの特徴は1)将来の技術革新を視野に入れた「技術ロードマップ」の構築、2)ミドル層主導による方針管理への転換、3)全階層における改善活動の推進と活動を通じた人づくりである。これらの活動により、売上高、苦情・クレーム、廃却不良等で顕著な成果を出している。

大豊精機株式会社

代表者名 : 佐藤理通 (代表取締役社長)
所在地 : 〒470-0341 愛知県豊田市上原町折橋 1-15
TEL : 0565-43-0801
事業内容 : プレスの自動化装置およびその付属品の設計・製造
量産部品の製造・試作車両用ユニット部品の製造、試作、
量産金型の設計・製造
従業員数 : 448 名

【選考理由】

大豊精機株式会社は 1973 年に設立された資本金 8 億 7,880 万円、従業員 448 名の企業である。企業理念は、「安全性と信頼性の高い商品づくりを通して社会に貢献する」を掲げ、お客様に満足して頂くことと地球環境にも配慮した製品を提案・提供している。主な事業内容は、量産用自動車部品の生産及び生産設備・金型（試作、量産）の設計・製作である。大豊精機の TQM 活動の特徴は、①ビジョンの明確化と確実な達成②コア技術を組み合わせたコア・コンピタンスの持続③顧客ニーズに応える高い技術力④管理部門の業務プロセスの見える化⑤IoT の積極的活用⑥長期スパンの人材育成である。結果として、売上高と生産性が確実に上がっており、営業利益も増加している。

株式会社丸開鉄工

代表者名 : 丸開和夫 (代表取締役社長)
所在地 : 〒923-0994 石川県小松市工業団地 1-86
TEL : 0761-21-3102
事業内容 : 建設機械部品の製造
従業員数 : 13 名

【選考理由】

株式会社丸開鉄工は、1971 年石川県小松市に創業、年間売上高は 3 億円余、従業員数はパートを含めて 13 名、建設機械及び産業機械の機械加工部品の製造を主な事業としている。

TQM を小規模組織に合わせて独自にアレンジし進化をさせていることに特徴があり、a) 経営課題の達成に向けた全員参加の目標管理・プロセス管理、b) ムダの見える化と削減、c) IT を活用した工程管理、d) 固有技術・管理技術に関する資格取得の推進、e) 機械設備の充実と働きやすさの追究など、自組織の実情にあった TQM を実践している。

これらの活動の結果、人材の育成が図られるとともに、改善活動に全員で取り組むことを通じて、a) ムダ取り改善効果の向上と設備修繕費の低減、b) 納期達成率の向上と在庫回転率の改善、c) 安全評価点の向上と無災害記録の継続、d) 品質不具合件数（社内）の減少、e) 技能検定資格者・QC 検定合格者数の増加などの大きな成果に結びつけている。また、こうした努力の結果、取引先からも高い評価が得られるまでに成長してきた。

以上の活動内容およびその結果から「日本品質奨励賞・TQM 奨励賞」の授賞を決定した。

株式会社マルヤス・セキソー東北

代表者名 : 山田昌也 (代表取締役社長)

所在地 : 〒024-0051 岩手県北上市相去町大松沢 1-93

TEL : 0197-81-5030

事業内容 : 自動車内装部品製造業

従業員数 : 58 名

【選考理由】

受賞企業の株式会社 マルヤス・セキソー東北は、2000 年設立の日本セキソー工業 (株) 岩手工場を前身に 2003 年に現在地の岩手県北上市に移転して操業を開始した。資本金 8,000 万円、2016 年度売上高 10.7 億円、社員数 50 名規模の自動車部品メーカーである。TQM の導入は 2015 年で、東日本大震災の影響や自動車メーカーの生産車種再構築への対応遅れによる生産量の大幅な落ち込みが背景になっている。TQM 推進のねらいを『自立し、成長できる企業体質への変革』として、「中期経営計画」により、①営業力強化とお客様との連携強化による売上・利益の拡大、②素材から完成品までの一個流しの実現によるリードタイム・コストの削減、③計画的な人材育成による固有技術・管理技術の向上、の 3 点を経営課題として活動を推進した。

トップの強固なリーダーシップと全員参加のもと T Q M を実践し、工程内不良率の 50% 低減、リードタイムの 75% 低減、設備故障停止時間の 20% 低減、製造原価の 15% 低減、輸送費の 20% 低減などの大きな効果が得られた。これらが生産量の V 字回復とともに、売上高及び経常利益額の大幅向上につなげており高く評価できる。

以上の活動内容およびその成果から「日本品質奨励賞・T Q M 奨励賞」の授賞を決定した。

2. 日本品質奨励賞 品質革新賞

株式会社眞栄

代表者名 : 小島洋一郎 (取締役社長)

所在地 : 〒470-0324 愛知県豊田市大清水町南岬 1-448

TEL : 0598-76-1055

事業内容 : 建築・営繕、造園・土木工事の設計施工、緑地・山林管理、木材加工

従業員数 : 45 名

【選考理由】

(株)眞栄は、資本金 8 千万円、従業員 45 名、建築・営繕と造園・土木の設計施工、山林・緑地の管理、木製品提供を業務とし、320ha の山林を管理している。

構造不況下の山林事業に対し、次の組織的な取り組みで活路を拓き成果を上げた。

1)川上から川下への一貫した自産自消による山林事業の革新、2)和に基づく人中心経営による利害関係者の満足度向上、3)山林事業への製造思考の導入、4)TQM による持続可能な山林経営。これらにより、厳しい経営環境での事業展開に苦慮する日本の第一次産業の在り方を展望し、TQM を活用した優れたビジネスモデルを提示した。

リコーテクノロジーズ株式会社 第二設計本部

代表者名 : 江間裕通 (執行役員 第二設計本部 本部長)

所在地 : 〒243-0460 神奈川県海老名市泉 2-7-1

TEL : 0224-58-2491

事業内容 : 複写機・複合機に連結される原稿系・給紙系・後処理系周辺機器の開発と設計

従業員数 : 290 名

【選考理由】

リコーテクノロジーズ株式会社・第二設計本部は、複写機や商業用印刷機の周辺機器の開発・設計を担当しており、従来から“開発・設計業務における生産性向上”という大きな経営課題を有していた。同部門は、これを解決するために「プロジェクト型品質マネジメントシステム」の構築・運用に取り組んだ。特徴は、a) 機能の共通性に着目した品質工学の系統的な適用と評価方法の標準化・共有、b) 徹底したタスクの分解と単純化した5つの指標によるアラート管理と階層的な進捗確認と、c)これら2つのシステムを一体化させた運用である。この取り組みは、他の組織における再現性・有効性と、TQM の発展に寄与する革新性を持ち、日本品質奨励賞品質革新賞に値するものと評価した。

以上